

常陸大宮の二十四輩(下)

◆市内の二十四輩寺院

前号では、親鸞の高弟のうち「二十四輩」として知られる初期の門弟についてご紹介しました。選定された門弟は二十四人ですが、一人の開基が複数の寺を開いたとされることが少なくありませんので、現在では、東国を中心とした二十四輩ゆかりの寺は四から五十ほどに数えられます(寺格や移動により最大で百八十ほどに数えることもあります)。この二十四人のうち六人の弟子の開いた寺が現在常陸大宮市に存在しています。真宗寺院は頻繁に移動していますので、当初は現市域にあったものの、のちに移動していった寺院もあります。市内の八田地区に草庵を開いたとされる「八田の入信」(寿命寺開基の「穴沢の入信」とは別人)ゆかりの寺は、現在は常福寺としてつくば市大曾根に存在しています。市内の六カ寺についての概略をまとめましたのが下表です。

◆真宗寺院の宝物

六カ寺では、本尊である阿弥陀如来のほか、いずれの寺でも聖徳太子立像と開基上人の像を宝物として所蔵しています。善徳寺、照願寺、寿

	二十四輩番付	真宗内の宗派	開基	開基の俗名	開基年代	現在地	寺の移動
善徳寺	第12番	本願寺派	善念	佐竹昌義の曾孫 南酒出六郎義茂	建保元年(1213)	鷺子額月	南酒出(那珂市)→現在地
寿命寺	第16番	本願寺派	穴沢の入信	佐竹3代秀義の子 義繁	建保5年(1217)	野口大畠	穴沢(城里町上阿野沢)→現在地
照願寺	第17番	真宗大谷派	念信房勝溪	高沢城主高沢伊賀守氏信	貞応元年(1222)	鷺子城崎	毘沙幢(市内小舟)→春丸(市内鷺子)→現在地
法専寺	第19番	真宗大谷派	明法	平清盛の孫 平能宗、修験播磨公弁円	嘉禄2年(1226)	東野里	楢原法徳院(市内東野)→現在地
常弘寺	第20番	本願寺派	慈善	後鳥羽上皇院臣 壺井大学頭橘重義	嘉禄元年(1225)	石沢 椿下	なし
本泉寺	第24番	本願寺派	唯円	鳥喰六郎兵衛尉朝業	宝治2年(1248)	野上	鳥喰(那珂市)→古河→鳥喰→古河→現在地

命寺には現在も本堂とは別に太子堂がありますが、他の寺でも江戸時代の刷り物などを見ると太子堂があったことが分かります。それほど、浄土真宗寺院と聖徳太子は密接なつながりがあるのです。

真宗寺院に聖徳太子像が祀られる訳は、日本に仏教を広めたとされる聖徳太子を、親鸞が深く信仰していたためです。親鸞は、生涯で二度にわたり、修行中に聖徳太子の夢告を得たとされます(一度は聖徳太子が救世観音に化身した姿を見たともいわれます)。自らが信仰するだけでなく、庶民にも分かる平易な言葉に節をつけた「和讃」を作り、真宗の教義と合わせて聖徳太子の偉業や教えを広めることに努めました。

開基上人の像は戦国期から江戸時代初めにかけて作られています。これは江戸初期以降に二十四輩寺院を巡拝することが、真宗門徒はもちろん、一般庶民にまで娯楽の一種として流行するためと思われます。

法専寺の開基、明法の像は笈(仏具や衣服などを入れて背に負うための屏つきの箱)の中に安置されています。先々代の住職までは、この笈を担いで遠方へ布教に行ったそうです。



▲聖徳太子立像(常弘寺)



▲唯円坐像(本泉寺)



▲入信坐像(寿命寺)

また、照願寺の聖徳太子像も各地で出開帳を行ったといわれています。大坂や江戸といった遠方の門徒によって厨子(仏像や経を安置する屏つきの箱)が寄進されている例もあります。

※資料館では三月十一日まで企画展「親鸞の高弟たち―常陸大宮の二十四輩―」を開催しています。

歴史民俗資料館大宮館  
52-11450